

## 第9回

デジタルが苦手でも  
施設のニューテクを担う

今後利用者として「団塊の世代」が激増していくなか、新たな高齢者像を知り、介護ニーズを理解するため、団塊の世代の実情や志向、団塊の世代がもたらす介護現場への影響について解説します。

新しいものは  
いつも団塊世代から

団塊世代は若者のときに新しいものが次々に登場し、それらを他世代に先駆けて取り入れた世代です。ビートルズ、ローリングストーンズといったロックやポップスをはじめ、男の長髪、ジーンズ、ミニスカートという今日では当たり前前の若者ファッションを自分たちのものにししました。また、最初の男性化粧品、『メンズクラブ』『anan(アンアン)』『nonno(ノンノ)』といった若者向けファッション誌・女性誌、そして

最初のカップ麺やコンビニ、さらに30歳前後の頃、本格的な乗用ワゴン車が登場し、最初のコンピュータゲームであるインペーダーゲームに親しんだのも団塊世代でした。

その意識は今でも変わりません。「団塊世代を含む60代が従来と同年代とどういう点で違うと思いますか」という質問に対する答えとして、1位「年相応にならない」、2位「若さ」が挙がっていますが、それに続いて「新しいものやコトに敏感」が「上から目線にならない」「若者に小言を言わない」とほぼ同レベルとなっています(図表)。

現在、全国の介護施設における大きなテーマのひとつに、デジタルテクノロジーをどう取り入れるかということがあります。それは今後5〜10年でかなり進むことも予想されますが、その進行と団塊世代の施設利用が重なります。

不得手で弱点だが  
徐々に慣れつつある

しかし、その新しいものの好きの団塊世代が唯一不得意といえるのが「デジタル機器」なのです。特に女性は大の不得意と言えます。とはいえ、団塊世代のなかにもデジタルがようやく浸透しつつあ

ります。男性は会社生活の最後でパソコンが一般化した世代で、リアルタイム後は定年生活を楽しむ武器になりました。携帯電話も男女ともによりやくスマホ移行が進みつつあります。女性も自分が主体的な使い手にならないまでも、使いやすいデジタル機器を抵抗なく受け入れるでしょう。

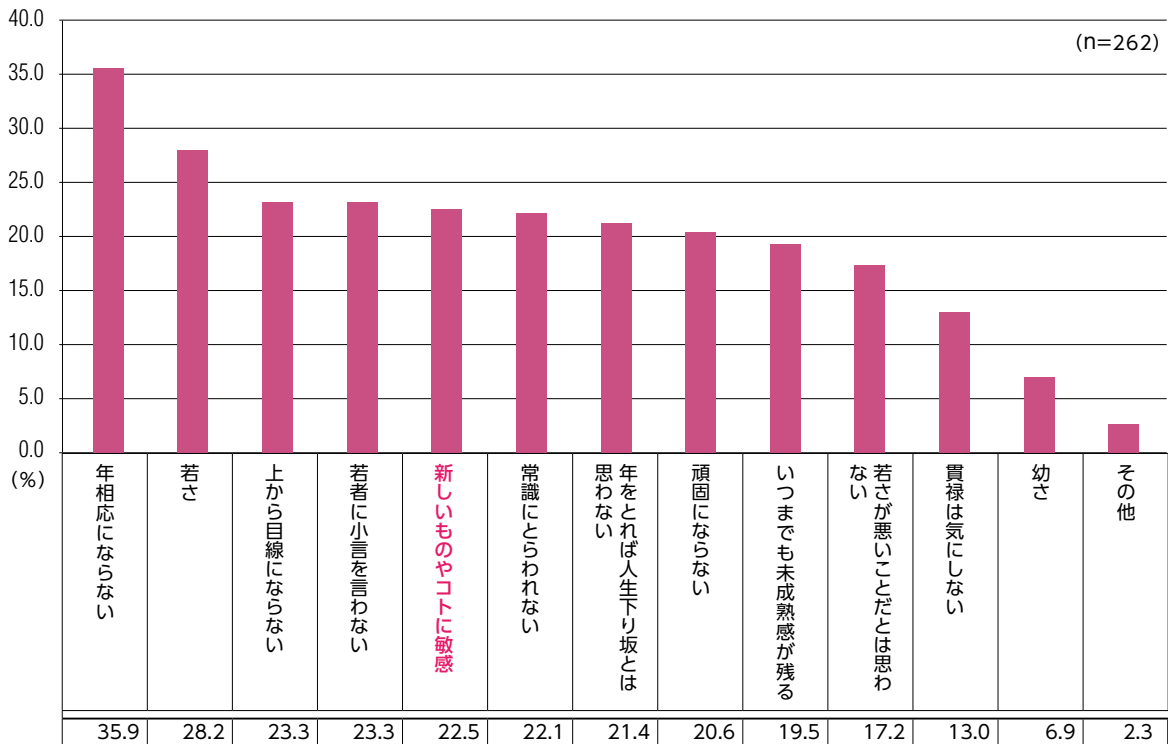
施設でのデジタル導入を  
団塊世代が後押し

介護施設で活用するデジタルテクノロジーにはICT・AI・ロボットなどが考えられます。実際にはコスト面の問題もあるのです



さかもと・せつお ●1975年早稲田大学商学部卒。株博報堂入社。プロモーション企画実務。研究開発に従事後、企業のソーシャルマーケティング開発を推進。2000年にエルダービジネス推進室、11年に新しい大人文化研究所を設立。さらに、19年に独立し当研究所を創設。現在、所長。著書『50歳を超えたらもう年をとらない46の法則』(講談社+α新書)『シニアマーケティングはなぜうまくいかないのか?新しい大人消費が日本を動かす』(日経新聞出版社、韓国版、台湾版)他

図表 従来(特に20・30年前)の60代と違うと感じるところ(60代の回答、複数回答可)



出典：博報堂新しい大人文化研究所調査

が、ここでは団塊世代が利用者となったときにどのようなことが想定できるかを考えてみましょう。

たとえば、職員がマッスルスーツを使ったりタブレット端末を駆使したりすることについては、「なかなかやるね」というような反応になることが予想されます。それだけでなく、「早くシステム化しないとダメなんじゃないの」とか「そのアプリ古いんじゃないの」とかというようなことも言い出しかねません。

移乗介助ロボットや離床介助ロボット(ベッド)については、比較的前向きに受け止めてくれそうです。「施設としてチャレンジしたいので協力してもらえませんか」と言えば、積極的に協力してくれる可能性もあります。「是非ご意見をいただきたい」と頼めば、「そうか、やはり自分の意見が必要か」と思ってくれるでしょう。

### 人型ロボットに親近感を感じる

団塊の世代が最もスムーズに受け入れそうなのが、見守り機能を兼ねたコミュニケーションロボッ

トです。スマートスピーカーだけでもいいのですがやはり形だけでも人に近いロボットになっていたほうが効果的です。動かなくても構わないので、男性にはスターウォーズのR2-D2、女性にはおしゃべりする子供の人型ぬいぐるみのプリモプエルのようなものが望ましいと思います。

R2-D2のようなロボットに「おはようございます。お目覚めはいかがでしょうか」と聞かれれば、率直にそのときの体調を語るでしょう。プリモプエルのようなロボットが「そろそろおやすみの時間です。何かご心配はありませんか」と聞いてくれば、人には言わないことでも思わずつぶやきそうです。団塊世代の男性にとって前者は何でも聞いてくれる小さな執事のような存在であり、女性にとって後者は気の利く孫のようなものなのです。

これからも介護職員の確保がますます厳しくなることが想定されます。そうしたなか、デジタルテクノロジーをフル活用した新しい介護施設の姿が、団塊世代の利用者とともに見えてくる可能性があると言えるでしょう。